

報道関係者 各位

奈良県におけるオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示す  
遺伝子変異が検出された新型インフルエンザウイルスについて

奈良県から、タミフル耐性を示すH275Yの遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが検出されたとの報告がありましたので、その概要について、別紙のとおり、情報提供します。

# 報道資料

平成22年2月3日  
奈良県健康安全局  
松山 氏 平  
3223 3224

抗インフルエンザウイルス薬オセルタミビル（商品名：タミフル）に耐性を示す  
遺伝子変異が検出された新型インフルエンザウイルス（A/H1N1）の  
確認について

本県では新型インフルエンザが確認された患者の方のうち、重症化のため入院された方の中から、抗インフルエンザウイルス薬オセルタミビル「タミフル」に対する耐性を示す遺伝子があるかどうかの検査（いわゆる耐性検査）を実施しています。

今回、本県で初めてこの耐性を示す遺伝子が検出されましたのでお知らせします。

なお、報道に際しましては、患者及び家族のプライバシーに十分配慮して頂くようお願いいたします。

## 1 患者の概要

患者は生駒郡在住の5歳の男子

基礎疾患 なし

感染源 不明。

（経緯）

11月26日（木） 発熱 上気道炎 下気道炎  
近隣診療所受診 迅速検査の結果A型陽性 タミフル投与

11月29日（日） 解熱

12月 1日（火） 咳が続くため、再度、近隣診療所を受診  
呼吸状況が悪化したため、奈良市内の病院に入院  
入院時39.2度 軽度の肺炎 リレンザ投与  
PCR検査のため、検体を採取し、奈良県保健環境研究センターで検査。新型インフルエンザ陽性を確認

12月 7日（月） 回復、退院

## 2 検査の概要

1月18日（月） 奈良県保健環境研究センターにおいて、遺伝子解析を実施した結果、タミフル耐性を示す遺伝子を検出した。

奈良県保健環境研究センターでは、昨年8月から現在までに69検体でタミフル耐性検査を実施。今回、初めてタミフル耐性を示す遺伝子を検出。

全国では、46例目。

2月 2日（火） 感受性試験（インフルエンザウイルスに対して抗インフルエンザウイルス薬が効果があるかどうかの試験）を国立感染症研究所において実施するため、ウイルス培養を実施してきたが、現在までに培養できず、感受性試験は実施できなかった。

3 患者の家族に発症者はいない。また、患者の周囲の人で入院等重症化した患者も確認されてなく、耐性ウイルスによる感染拡大はみられないと考えている。

4 厚生労働省によると、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異は、ウイルスの重篤度（病原性）には直接影響を及ぼすものではないとされている。